



行事予定表		
4	火	巡回相談(13:00~)
6	木	筑波山登山／サロン
11	火	ピヨピヨひろば(給食試食会)
13	木	カレーの日(祖父母交流)
17	月	交通安全教室(2歳児以上)
18	火	つつじが丘・ふたばランド交流会(5歳児)
19	水	おべんとうデー／リトミック(2歳児以上)
20	木	秋遊び交流会・牛久二小給食試食会(5歳児)
//	//	サロン
21	金	避難訓練
26	水	誕生会(人形劇)
29	土	運動会

*今月は、風を感じ秋の自然を満喫しながら園外へ出掛けようと思います。また、身体を動かすことを楽しみ、薄着で健康に過ごしたいですね。



次から次に台風がやってきては、湿った大気を送り込み、雨また雨の毎日、急に寒くなり、一気に秋と思っていると、翌日には、真夏のように。もうすぐ運動会。練習も思うようにならないが、それでも子ども達は雲の切れ間に、楽しそくに遊びこんでいる。10月は、スカーンと抜けるような秋晴れの下、美しく変化する自然の中で、思い切り遊びたい。

楽しかった！お芋掘り

6月に4・5歳児で植えたサツマイモの苗が大きな大きなお芋になりました。畑の芋のつるは天候不順の影響もあり、葉っぱが沢山に食べられていました。子ども達は芋虫に気を付けながら、みんなで「うんとこしょ！どっこいしょ！」沢山のお芋を収穫しました。お芋クッキングが楽しみです！



今月の予定の中から



●筑波山登山(6日)

・年長児が筑波山のつつじが丘駐車場から女体山の頂上まで自分の足で登ることで達成感を大いに味わいたいと思います。

●カレーの日(13日)

・先月は天候不順のため、祖父母交流が中止となり、今月も祖父母交流会を設ける事になりました。エプロン・三角巾の用意は子ども達自身が出来る様に各家庭で声を掛けて下さい。

●交通安全教室(17日)

・お散歩に出掛けると一時停止と左右確認を忘れてしまう子ども達もいます。保育園でも伝えていきますが、ご家庭でも、繰り返し交通ルールについて伝えて下さいね。

●つつじが丘・ふたばランド交流会(18日)

・つつじが丘保育園、ふたばランド保育園・当園の5歳児が集まり、つつじが丘保育園で運動会ごっこの中で交流を深めます。

●牛久二小へ秋遊び交流会・給食試食会(20日)

・5歳児が、小学校で2年生と一緒に秋の自然物を使い遊んだり、その後は6年生と一緒に給食を食べます。就学に向けて、期待が高まる機会となりますように！

●誕生会(26日)

・今月は保護者会の皆様のご協力のお陰で「座まりん」の人形劇になりました。お話の世界へと引き込まれる時間が楽しみです。

☆お知らせ★お願い

☆調理員として谷内真由美さんが勤務しています。美味しい給食を作ろうと頑張っています。

薄着の習慣をつけましょう

★朝晩の気温差がありますが、日中の子ども達は活動的です。着替えの中には、半袖や下着等調節出来るものを必ず入れてください。

☆運動会は10月29日(土)9時頃～12時頃

場所・牛久運動公園メインアリーナ
テーマ「みんなが主役！」
笑顔あふれる「ふたばっこパワー」

*普段の遊びの中から、運動会に向けての競技を考えています。当日は、暖かく子ども達の成長を見守りながら、一緒に参加し、楽しい時間を過ごして頂けたら幸いです。詳細は後日お知らせを配布致します。

*今年も、保護者会競技は「ムカデ競争」になりました。奮ってご参加ください！

「・・・継続は力なり・・・」

赤ちゃんが寝返りをうとうと、繰り返しヤレンジし続ける。うつぶせになると、体を両手で支え頭を持ち上げるが、長くは頭の重さに耐えられない。しばらくすると、両手をつっぱり、腰を上げ、ハイハイをするようになる。次はつかまり立ちだ。立つて、一歩を踏み出すが、倒れる。それでも、何度も失敗し、一歩が二歩に。周囲の大人もみんな拍手と歓声、感動。赤ちゃんも、満面の笑み。達成感と自尊と自信が、あのヤッターと言っているような顔に現れている。▼人間は元々、不可能を可能にするように努力を続け、可能になった時に達成感や喜びを味わってきた。人間の体の中には、そういう努力のDNAが組み込まれている。努力せず何でも手に入る生活をしている時には、生きる充実感ではなく、怠惰

に時が流れるだけで、心から満たされることはない。▼感覚遮断実験、食事睡眠も空調等の生活環境は十分整えられているが、音も、見えるものも全ての刺激を断つて、何日耐えられるかの実験である。被験者に学生アルバイトを募集したところ、こんな楽なアルバイトはないと、多くの応募者が集まった。ところが、一日も我慢できない人が大勢いた。それどころか、短時間で幻聴や幻覚に悩まされ、精神的におかしくなりそうなる者が続出した。今では、精神障害を起こす危険な実験だとされ行われなくなった。動物園の動物も、檻の中に入られて、エサだけを与えられているだけでは、ストレスでおかしくなってしまうだろう。▼人間は、元々周囲の環境から刺激を受け、何かにチャレンジするようにできている。子ども達は何も言われなくとも、あらゆることにチャレンジする。そして、次はもっと先に手を伸ばして、チャレンジし続け達成感を重ね、自尊感情を強くしていく。そこでは大人の余計な口出しは不要なのだ。大人は環境を整え、子ども達のチャレンジ精神を刺激し、子ども達が一歩前進するたびに「ヤッター」「できた！」と喜びを共感するだけ、見守るだけで良いのだ。▼何でも与えられ、努力することもなく、新しいことにチャレンジする必要もない状況では、もつと良くしようという意欲はなくなる。子どもは少しハングリーな方がいいのだ。雲梯で、手が擦りむけてもチャレンジするのは「あんなに苦しいことを何でするのか、バカじゃない」「炎天下、汗びっしょりになって、延々と、エンドレスリレーをするのはおかしい」と思うような子になっては困る。幼児期は、達成感を味わい、自尊感情と意欲を育てる時である。

理事長 浅田 精利

